

第599回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 浪江町請戸地区被災状況

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、福島県内の各地域で未曾有の被害を受けました。浪江町は幾世橋地区で震度6強を観測し、さらにこの地震が引き起こした大津波によって町の沿岸部は壊滅的被害を受けました。加えて、隣接する双葉町大熊町域で福島第一原子力発電所事故が発生し、以後、放射能漏れによって多大で長期的な影響を受けることとなりました。

浪江町請戸地区は、津波による甚大な被害に加え、現在でも避難指示解除準備区域（平成23年4月1日警戒区域再編）となり、住民の帰還に向け、この地域の復興を果たすため、浪江町が復興まちづくり計画策定（土地利用計画策定等）を進めています。請戸地区は防災集団移転により住居は移転することになると思われるものの、請戸漁港とその周辺では多くの漁業関係者が今後も就業する予定であること等を踏まえつつ、町計画を策定中です。

そこで、町による復興まちづくり計画策定を進めるうえで、前提として整理する必要がある都市構造の骨格となるインフラ（県施工の港湾・道路・防災林）の部分について、町と県が協働で津波シミュレーションを行いながら、まちづくりの方針を検討しています。

…………… 双葉郡浪江町



2 大浜地区海岸・海岸災害復旧事業

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。地震から約1時間後に相馬市を襲った大津波（高さ9.3m以上）は、堤防を乗り越え、大洲海岸から約3.7kmの距離にある国道6号バイパスまで到達しました。市内の農地の約40%が冠水したほか、原釜・尾浜地区、磯部地区などの集落が波にのみ込まれ、死者458名、住宅被害5,584棟、被災水田面積1,102haと甚大な被害を受けました。本市沿岸部においては約2,000haを超える面積が津波による被害を受け、特に、松川浦漁港及び松川浦漁港海岸においては漁港施設並びに防潮堤の施設とともに、漁港区域内にある漁業関係者の憩いの場所として利用されていた緑地等の環境施設も甚大な被害を受けました。松川浦漁港海岸では今回の地震によりH=110cmの沈下が発生しており、防潮堤及び漁港環境施設を嵩上げ復旧する必要があります。同様に環境施設に隣接した県立自然公園に整備された遊歩道においても流出・沈下により施設が浸水することから、施設の復旧が必要不可欠であり、漁業関係者をはじめとする利用者及び周辺の観光業者からは、一刻も早い漁港環境施設の復旧とともに安全な賑わいの場の創出が求められており、被災からの復興及び振興に寄与するものと期待されています。

…………… 相馬市



3 東北中央自動車道 相馬福島道路（復興支援道路）

一般国道115号は、沿岸の相馬市と県都福島市を結ぶ重要な路線です。しかし、現道は急峻な山間部を通る区間が多く、多数の線形不良箇所や事前通行規制区間等があり、事故や災害により通行に支障をきたしています。一方で、東日本大震災では緊急輸送道路として利用される等、防災面においても重要な位置づけにあります。相馬福島道路は、現在の国道115号に変わって相馬～福島間を信頼性・速達性の高い道路で結ぶものであり、医療面・経済面等でも大きな効果が期待されています。また、相馬福島道路は東日本大震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクトとして位置づけられています。本道路が復興支援道路として整備されることにより被災地と内陸部の連携が強化され、被災地の復興を支援することから、早期完成を目指して事業が進められています。

…………… 相馬市～桑折町



（※移動時の車窓より見ることができません）